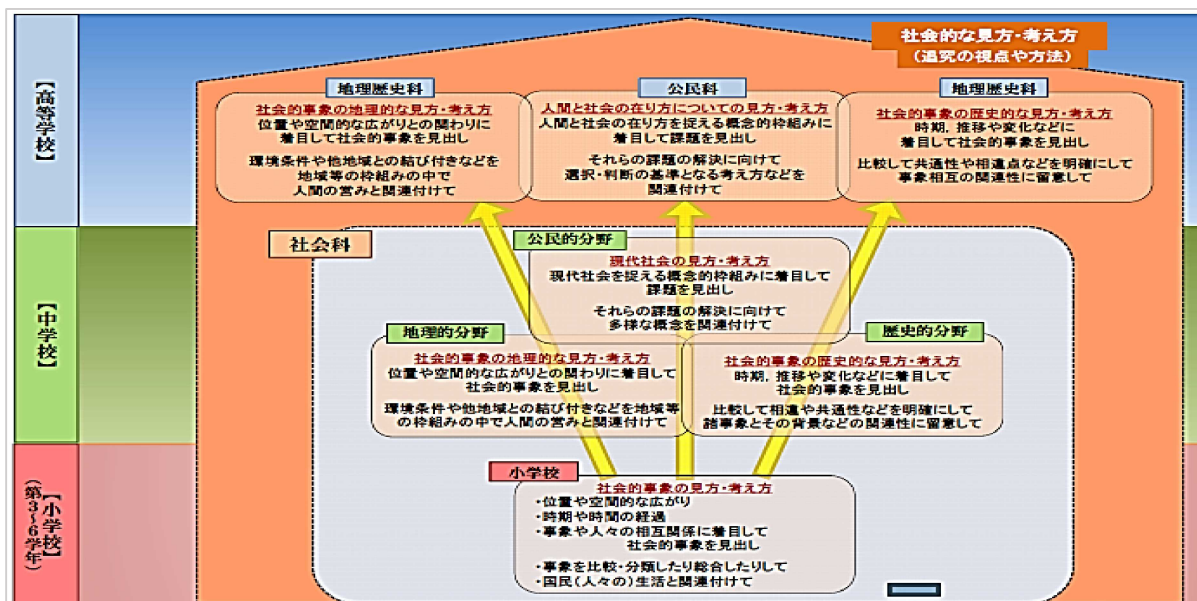


第3章 社会的な見方・考え方が変容する歴史学習の展開 【高等学校地理歴史】

1 基本的な考え方

高等学校学習指導要領世界史Aの目標は「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」である。この目標を達成するためには、年表や地図その他の資料の活用を通して世界の歴史を理解し、現代の諸課題に対応していくための思考力・判断力・表現力等の育成を図らなければならない。そのためには、言語活動を充実させていくことが重要である。事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えるためには、自分や聞き手、読み手の目的や意図に照らして事実等を整理し、明確に伝えることが必要である。また、自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し、尊重したりすることで自らの考えや集団の考えを発展させることにつながる。そのためには、集団の中で生徒がそれぞれの考えを表明し合うことを通じて、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、それぞれの考えの根拠や前提条件の違い、特徴などを捉えることが重要だと言える。また、それぞれの考えの違いや特徴を確認し合いながら、それらの考えを整理することを通じて、更に自分や集団の考えを振り返り、考えを深めることが重要だと言える。

また、高等学校学習指導要領地理歴史科では、世界史、日本史、地理それぞれの科目相互の関連を重視することを示している。しかし、現状の学校においては、歴史を客観的な知識体系として整理し、知識を伝えることを中心とした授業となっており、地理においても同様のことが言える。このような学びの方法では、本研究が目指す深い学びの実現に近付きにくい。深い学びの実現のためには、社会的な見方・考え方を意識する必要がある。したがって、社会的な見方・考え方を意識した授業改善が必要であると考える。社会的な見方・考え方は社会的な事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する



「中央教育審議会教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ資料」(2016)から転載

図1 社会的な見方・考え方

知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要である。

これらのことを踏まえて、学習指導要領の内容について社会的な見方・考え方と概念等に関する知識との関係などを示していかなければならない。また、歴史的な見方・考え方については、「推移や変化などに着目して社会的事象を見出すこと」「比較して相違や共通性を明確にすること」「原因と結果を関連付けること」と捉えられている（大友、2016）。

アクティブ・ラーニングとは、生徒の学びの質の向上を目指すものである。アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりは「主体的・対話的で深い学び」を実現することが重要となる。平成28年12月21日に、中央教育審議会から出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」によると、社会科、地理歴史科、公民科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、下記のような内容が示されている。

- | |
|---|
| <p>①主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。</p> <p>②対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されることとあり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。</p> <p>③深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から、例えば特に小・中学校における主権者教育の充実のため、モデル事業による指導法の改善や単元開発の実施、新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。</p> |
|---|

授業改善におけるアクティブ・ラーニングの三つの視点は、地理歴史科の授業においても重要である。生徒に身に付けさせたい社会的な見方・考え方を意識した地理歴史科の資質・能力を習得させるために、様々な学習方法から、授業実践と検証を繰り返すことで、学習の質を向上させていかなければならない。しかしながら、高等学校におけるアクティブ・ラーニングの授業においては、現代における諸課題と歴史的な事象が結び付いていることが実感できていないことが課題である。

このことから本研究では、社会的な事象を多面的・多角的に考察すれば、現代につながる諸課題に対して追究したり、解決したりする力が身に付き、「主体的・対話的で深い学び」が実現され、

生徒の社会的な見方・考え方が変容することを検証する。

2 研究目的

社会的な見方・考え方を働かせて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を工夫することで、社会的事象を多面的・多角的に考察し、現代につながる諸課題に対して追究したり、解決したりする力が身に付くであろうという仮説のもとに授業実践を行い、生徒の変容を検証する。

3 研究方法

(1) 研究期間

平成29年5月～11月

(2) 研究対象

県立樫原高等学校 地理歴史科世界史Aと地理Bを履修する第2学年の生徒118名

(3) 研究計画

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した高等学校地理歴史科における授業実践
- 深い学びの過程や学びの変容を見取るための質問紙調査の実施（5月、11月）及び分析
- 授業で使用したワークシートや成果物の評価と分析

4 研究内容

(1) 研究対象校の実態

樫原高等学校は、昭和50年に創立し、古代の息吹が漂う新沢千塚古墳群や宣化天皇陵などの歴史遺産や豊かな緑に恵まれ、静かな環境の中で豊かな感性個性の育成を目指している。「豊かな潜在能力を開花させ、知の創造を高め、豊かな感性を磨くことに努める」を学校教育目標に掲げ、「進路の第一希望の実現」と「人間力の向上」を目指している。

本研究の研究対象第2学年の生徒118名は、必修科目の世界史Aと選択科目の地理Bを学習している。全体的に授業に対して前向きに取り組む集団であり、落ち着いて学習する態度は身に付いている。研究員は、研究対象生徒が1年のとき、公民科現代社会の授業を担当しており、生徒の学習状況を把握できている。生徒は、教科書や教材で学んだ知識・理解を求める様子が見られる。研究校における生徒の地理歴史科目の学習に対する関心・意欲・態度や学習状況を見取るため、5月に質問紙調査を行った（表1参照）。項目に対する回答については、「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の中から一つを選ぶ4件法を採用し、順に4、3、2、1と点数化して、統計的に分析した。項目12、16においては、得点が低いほど肯定的な回答であることを意味する逆転項目である。

生徒の回答の得点の平均値が3以上あった項目8「歴史の大きな流れや移り変わりを把握することは大切である。」や項目11「歴史のテストで、よい成績をとるとうれしい。」からは、歴史の学習において知識を増やし理解を深めたいと考える生徒が多い傾向が見て取れる。しかし、平均値が最も低かった項目6「歴史上の人物の生き方について、自分と比較して考えることがある。」からは、生徒が歴史的な事象を自らの生活や社会と結び付けて考えることができず、授業において現代の諸課題を追究したり、解決したりする場面が少ないと感じている生徒が多い傾向が見て取れる。また、項目10「歴史の授業の内容はよく分かり、得意である。」の平均値は2.27であり、他の項目と比して低いため、地理歴史科の授業内容の理解を深めていきたいという意識に課題が

見られる。

表 1 歴史の学習に関する質問紙調査（第 1 回〔5 月〕 n=118）

要因	No.	質問項目	平均値
意欲と好意度	1	今、歴史の授業が好きだ。	2.63
意欲と好意度	2	歴史の新しい知識を、自分から進んで身に付けたい。	2.44
意欲と好意度	3	分からないことがあれば、自分から進んで資料や情報を収集している。	2.16
意欲と好意度	4	歴史の授業で、知らなかったことを知ったときはうれしい。	2.82
歴史学習と思考	5	集めた資料や情報を整理して、歴史的事象を推察することは重要である。	2.64
歴史学習と思考	6	歴史上の人物の生き方について、自分と比較して考えることがある。	2.05
歴史学習と思考	7	歴史的事象の原因と結果について、順序立てて考えることは大切である。	2.95
歴史学習と思考	8	歴史の大きな流れや移り変わりを把握することは大切である。	3.13
歴史の達成感	9	歴史の授業では、他人に説明すると自分の理解が進む。	2.83
歴史の達成感	10	歴史の授業の内容はよく分かり、得意である。	2.27
歴史の達成感	11	歴史のテストで、よい成績をとるとうれしい。	3.33
指導の方法	12	歴史は、一人で勉強するのが好きだ。	2.75
指導の方法	13	歴史は、ペアやグループで勉強するのが好きだ。	2.42
指導の方法	14	歴史の授業は、ICT機器を使って視覚的に学びたい。	2.88
指導の方法	15	歴史の授業は、友達と対話しながら学びたい。	2.62
指導の方法	16	歴史の授業は、教室で一斉の講義形式で勉強するのが好きだ。	2.69
地歴の有用性	17	歴史的事象は現在にも未来にもつながっている。	2.97
地歴の有用性	18	なぜその歴史的事象が起こったのか、原因を追究することに興味がある。	2.40
地歴の有用性	19	歴史は、科学・技術や経済・社会の発展に貢献している。	2.70
地歴の有用性	20	歴史上の人物がどのような生き方をしたのかは、現代人にも参考になる。	2.69
地歴の有用性	21	歴史の学習は、未来の日常生活に役に立つ。	2.42
地歴の効果	22	歴史的事象は地理的事象と深く結びついている。	2.77
地歴の効果	23	歴史の理解度が高まると地理の理解度も高まる。	2.52
地歴の効果	24	歴史のテストで、よい成績をとると、地理のテストもよい成績であった。	2.23

(2) アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた 1 学期の授業実践

ア 実践の概要

5 月の質問紙調査の結果や実際の生徒の様子を踏まえて、6 月に学校図書室でのグループワークを設定した。単元は「アジア諸国の興亡」を取り上げ、近世から現代における「台湾」に焦点化した。台湾は、研究指定校の修学旅行先であり、生徒にとって自分とのつながりが身近であり、その歴史的事象への興味・関心をもって学習意欲の向上、歴史の学習における有用性を実感させやすいと考えた。世界史の学習は、各地域の歴史の推移を学ぶ学習内容であるが、各地域の歴史がお互いに影響し関連している。世界史を大きな視野で捉えることはとても重要であり、空間的な視野も取り入れるように工夫した。単元全体を見通して学習課題を示し、ムガル帝国、オスマン帝国、清王朝を学習した後、以下の(ア)～(キ)の要領で台湾について学習した。

(ア) 4～6 人のグループに分かれ、台湾に関するテーマ別のワークシートを記入する。一つのテーマを焦点化し、文献やインターネットを用いて調べる。分かったことを各自が簡潔に付箋に

書き込み、A3用紙（班に1枚）に貼る。

- (イ) 貼られた付箋を見て、班でのテーマについて話し合い、発表内容をまとめる。
- (ウ) A3用紙を用いてグループごとに成果をプレゼンテーション（質疑応答を含む）する。
- (エ) 他グループの発表と比較し、自分のグループの内容を振り返り、図書館の文献やインターネットで関連情報を収集し、内容が醸成するように再度構築する。
- (オ) グループごとに自班の成果を再度プレゼンテーション（質疑応答を含む）する。
- (カ) プレゼンテーションを行っているグループ以外は、配布した相互評価表（図2）にて評価を行う。
- (キ) 単元の振り返りシートに、単元のまとめを記述する。

プレゼンテーション相互評価表							
2年()組()番 名前()							
発表グループ名 _____							
※評価は、「5」が最高です。							
観点	項目	評価				コメント	
(1) 内容	1) テーマに沿った内容であったか	1	2	3	4	5	
	2) 話の内容はわかりやすかったか	1	2	3	4	5	
	3) 自分が知らないことを知ることができたか	1	2	3	4	5	
(2) 資料	1) 掲示用資料はわかりやすかったか	1	2	3	4	5	
	2) 図・表・グラフなどを用いて見やすかったか	1	2	3	4	5	
	3) 重要な点が強調されていたか	1	2	3	4	5	
(3) 話し方	1) 声の大きさは適切であったか	1	2	3	4	5	
	2) 話し方のスピードは適切であったか	1	2	3	4	5	
	3) 問の取り方は適切であったか	1	2	3	4	5	

図2 プレゼンテーション相互評価表

イ 授業計画

- ・単元名 アジア諸国の興亡
- ・教材名 高等学校改訂版世界史A（第一学習社）・プロムナード世界史（帝国書院）
- ・単元の目標
 - 14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質と日本の位置付けを理解する。【社会的事象に対する関心・意欲・態度】
 - イスラーム世界の成熟について、オスマン帝国の宗教政策の視点から考察し、その結果を適切に表現している。【社会的な思考・判断・表現】
 - 明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。【資料活用 の技能】
 - アジア諸国の興亡について理解し、その知識を身に付ける。【社会的な事象についての知識・理解】
- ・評価規準

	社会的な事象に対する関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的な事象についての知識・理解
単元の評価規準	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

学習活動における 具体的評価規準	14世紀以降の世界の動向とアジアの特質に対する関心と課題意識をもち、意欲的に追究している。	14世紀以降の世界の動向とアジアの特質について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	14世紀以降の世界の動向とアジアの特質に関する様々な資料を収集し、有用な情報を選択し、まとめている。	大航海時代が始まる原因となったアジアの魅力という視点から14世紀以降のアジア世界の動向を理解し、その知識を身に付けている。
---------------------	---	---	--	---

・教材

高等学校改訂版世界史A（第一学習社）・プロムナード世界史（帝国書院）

・単元の指導計画（全6時間）

	学習活動	評価規準【 】評価方法（ ）
第一次	◎清、ムガル帝国、オスマン帝国の相違を理解する。	【知】3国の政治体制、民族や宗教などの相違を理解している。（ワークシート記述・小テスト）
第二次	◎清と日本の交易について、多面的・多角的に考察する。 ◎日本と台湾との交易について、課題設定を行う。	【関】16世紀の東アジアと日本の関わりに関心を高め、意欲的に追究しようとしている。（行動観察・ワークシート記述）
第三次（本時）	◎台湾について、グループワークを行い、レポートの作成、発表を行う。 ◎振り返りシートを活用し、単元のまとめを行う。	【技】収集した資料を活用して、生徒同士で話し合い、発表原稿をまとめている。（行動観察・発表原稿） 【思】単元を振り返り、現代の諸課題について、自分の言葉で表現している。（振り返りシート記述）

ウ 1学期実践後の生徒の様子

研究校の第2学年は、12月7日から10日にかけて修学旅行で台湾を訪れる予定であり、事前学習も含め、「アジア諸国の興亡」を単元の指導計画に設定した。生徒が修学旅行で訪れる台湾について、どのくらいの知識があるのかワークシートを用いて調査した。生徒は、台湾の地誌や気候、政治、日本との関係等についての知識は豊富でなかった。台湾について、知っていることを尋ねると多くの生徒が「小籠包」や「マンゴーかき氷」と答えた。また、台湾について学ぶには、中国との関係を知る必要があり、修学旅行をきっかけとして、隣国の現状と成り立ちについて学ぶ大切さを伝えた。台湾について、興味・関心を高めるために図書室での調べ学習を設定した。グループでテーマを設定し、情報収集、整理、発表することによりあまり慣れていない様子であったが、普段と異なる学習方法に主体的に学習に取り組む姿が見られた。生徒は、図書室にある資料、



図3 発表資料の作成

インターネット等を用い、積極的に調べるようになった。「言語」について興味があるグループは「なぜ台湾のお年寄りの人たちは日本語を話すことができるのか。」と考え、歴史的経緯をたどり、自分たちの疑問を解明していった。徐々に、疑問を感じたことを自分で調べるようになった。まとめたことを発表する時間では、発表に慣れていない生徒、人前で話すことが苦手な生徒が見受けられたが、中には、「過去と現在」を結び付けたり、比較したりして、グループの意見を他者に伝え質問に対して的確に回答できるグループもあった。生徒は多面的・多角的な考察をすることで、現代の諸課題に気付き、単元のまとめ(図5)に記述し、それを研究員がループリック(表2)をもとに評価した。今回の実践はその点において、生徒たちが自ら疑問をもち、テーマを設定し、グループで意見を出し合い、まとめ、発表し、最後に生徒同士で相互評価をするという活動を行い、単元「アジア諸国の興亡」を日本と台湾の関係、台湾と中国の関係について知識を身に付けただけでなく、自分たちで考え、それを今後の生活に生かせる学習ができた実感した。生徒たちの感想の中では、「故宫博物館で日本との交易について調べてみたい。」や「親日といわれているが、本当に台湾が親日なのか自分の目で確かめたい。」など修学旅行への意気込みを高めている生徒が大多数であった。



図4 学習発表の様子

○この単元を学習した後で、さらに知りたい内容を述べてください。

台湾の過去について知りたかった。蒋介石と毛沢東の関係や、中国と台湾の関係、台湾の起源など、複雑で深いことがたくさんあると思うからとても気になる。また、大航海時代に航海をした人がどのような考えで、なぜその航路を通ることになったのかも詳しく知りたいと思った。

台湾の過去をさらに知りたいと思った。蒋介石と毛沢東の関係や、中国と台湾の関係、台湾の起源など、複雑で深いことがたくさんあると思うからとても気になる。また、大航海時代に航海をした人がどのような考えで、なぜその航路を通ることになったのかも詳しく知りたいと思った。

図5 単元のまとめの記述例

表2 1学期に使用したループリック

アジア諸国の興亡 単元のまとめ			
	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
思考・判断・表現	近世におけるアジアの動向の経緯や意義について理解し、公正に判断して、多面的・多角的に考察している。焦点化した台湾が抱える現代の諸課題について、知識を活用して自分の言葉で表現し、追究している。	近世におけるアジアの動向の経緯や意義について理解し、公正に判断して、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。	近世におけるアジアの動向の経緯や意義について理解し、公正に判断して、多面的・多角的に考察している。

(3) アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた2学期の授業実践

ア 実践の概要

2学期は、11月に単元名「アメリカ独立革命」の授業実践を行った。生徒に学習計画表(図6)を配布し、「単元の課題」と各時間の「学習課題」を示し、単元の課題に対する回答を大観できるようにした。アメリカ独立革命の意義を考察するために、グループに三つの資料を配布し、「イギリス本国側」「植民地側」「先住民側」の資料をグループで読み取るように設定した。三つの視点からアメリカ独立革命を多面的・多角的に考察し、まとめた内容をグループ内で伝え合い、共有した情報を再度ペアで考察し、アメリカ独立革命の意義を考察した。

学習計画表	単元名	アメリカ独立革命
【基礎となる問い】	アメリカ独立革命の意義とは	
【小さな問い】	アメリカ合衆国はどのようにして誕生したのだろうか	
	イギリスが植民地としていたところにイギリス人がマサチューセッツ州に信教の自由を求め、脱けもたらした植民地を管轄しているイギリスから独立しアメリカとなる。	
【小さな問い】	フレンチ=インディアン戦争の意義とは	
	アメリカ大陸で植民地を獲得しようとしているフランスとイギリスが勢力を争い、イギリスが勝利し、インディアンも敗れてきた戦争。	
【小さな問い】	アメリカ独立宣言の内容とは	
	イギリス本国の専制を拒み、自由で平等である社会を築いていく内容。	
【小さな問い】	アメリカ独立革命とは何だったのだろうか	
	アメリカ大陸の植民地側の人々がイギリスから独立し、自分たちで社会を築いていったこと。	

図6 学習計画表

イ アクティブ・ラーニングプランニングノートの活用

2学期の授業計画においては、奈良県立教育研究所で開発を進めているアクティブ・ラーニングプランニングノート(図7)を活用した。単元前の生徒の姿や単元を通して付けたい力、評価規準などが書き込めるようになっており、さらに「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導の工夫ができるように構成されている。研究員はこのアクティブ・ラーニングプランニングノートを用いて作り上げた単元の指導計画に基づいて授業実践を行った。また、アクティブ・ラーニングプランニングノートには、生徒の変容と授業者の振り返りを書き込む欄も設け、各次の単元が終了した後に書き込んだ。

高等学校 地理歴史科 プランニングノート		
生徒の実態 生徒は真面目に学習に取り組んでおり、受動的に知識を得る様子が見られる。自ら考え、主体的に表現することは不十分である。	目標 確かな知識・技能をもち、自分の考えを明らかにし、主体的に表現する力を高め、社会に通じる人間力を形成する。	
主体的な学び ◎単元の見直しをもつ学習計画書の配布。単元の課題を確認。 ◎グループ学習 自分の考えを伝える。	対話的な学び ◎生徒との対話 単元の課題について、話し合う。 ◎資料の読み取り 三つの資料を読み取って、内容を伝え合う。	深い学び ◎内容の整理 グループで話し合った内容を分析し、自分の考えを整理する。 ◎単元の課題の記述 単元の課題を見出し、現代の諸課題について、広げたり、深めたりしている。
単元の評価規準		
(1) 関心・意欲・態度 ①アメリカ独立革命に対する関心と課題意識をもち、意欲的に追究しようとしている。	(2) 思考・判断・表現 ①アメリカ独立革命について考察し、その歴史的意義について多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	(3) 資料活用・技能 ①アメリカ独立革命について考察する際、諸資料を適切に活用している。
(4) 知識・理解 ①アメリカ独立革命について理解し、その知識を身に付けている。 ②革命の経過を把握し、革命の意義・影響について理解を深めることができる。		

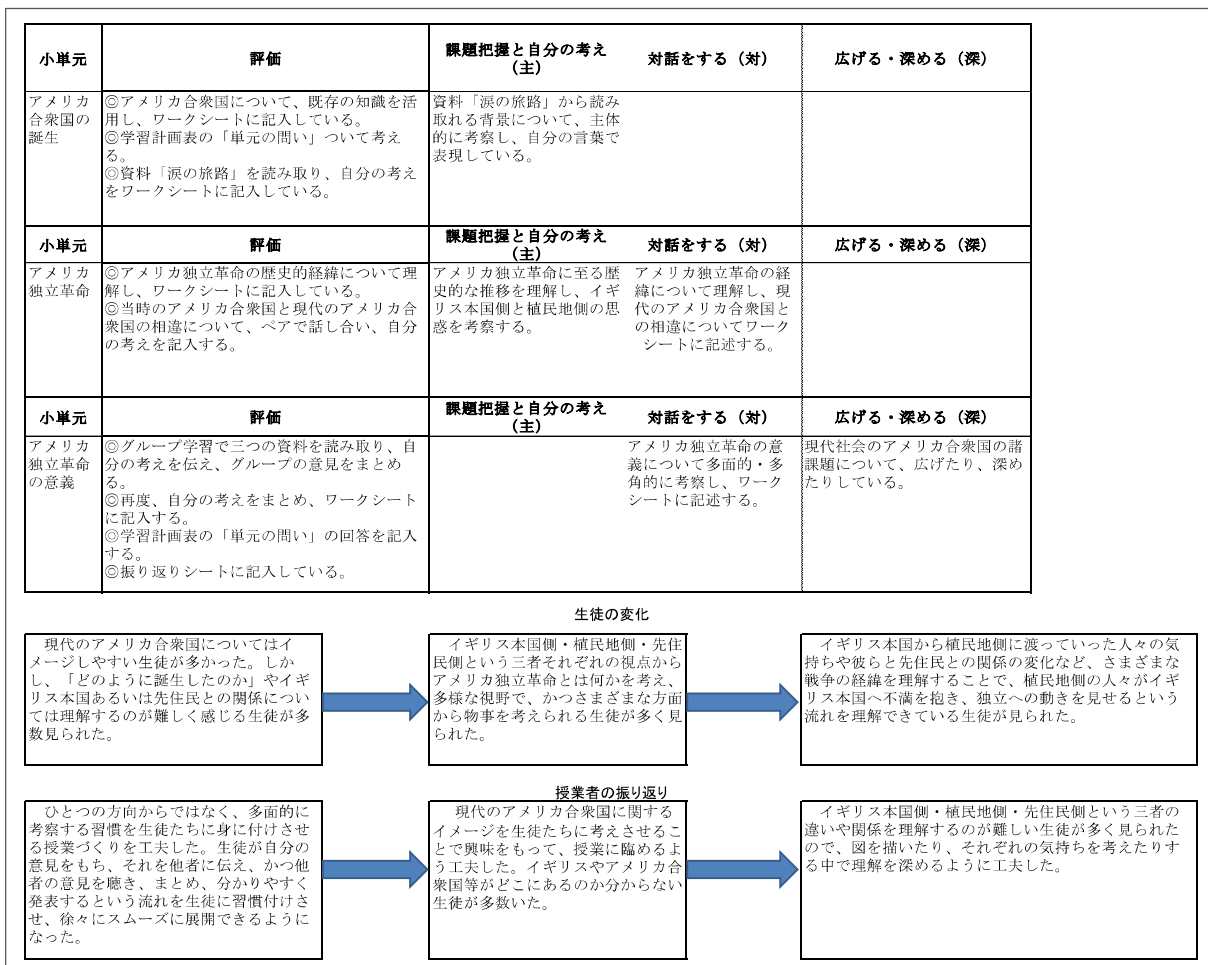


図7 2学期授業実践のアクティブ・ラーニングプランニングノート

ウ 2学期実践後の生徒の様子

アメリカ合衆国について、政治や気候、流行などを知っているという意見が多く出されたが、歴史的経緯や成り立ちということに触れると、知識が豊富でない生徒が多かった。イギリスの市民革命、産業革命の学習を行い、イギリスから新大陸へ移動した人々が、独立を達成するまでの歴史的経緯だけではなく、アメリカ独立革命を多面的・多角的に考察させた。イギリスから渡米した人々が13の植民地をつくり、それが現在の国旗にもつながっていることを確認し、領土獲得のために度重なる戦いと本国から自由を獲得するために人々が立ち上がった様子を学習した。その後、イギリス本国側、植民地側、先住民側という三つの視点からアメリカ独立革命について考察した。教科書は植民地側が独立を達成し、自由を獲得したと記されているが、すべての人に自由、平等が約束されたわけではなかった。そのため、植民地側以外の立場からも考察し、自分の考えを明らかにできるように工夫した。アメリカ合衆国の歴史が浅いことに驚く生徒が多く見られ、政治的にも経済的にも強大なアメリカ合衆国のイメージが変わったという生徒が多数いた。現在の国旗の成り立ちや、多様な人種が存在することなど、現在とつながる内容を取り上げることで生徒たちは興味を示した。そのアメリカが独立する過程を学習する中で、本国側と植民地側、先住民側の推移・変化、比較、因果関係が



図8 グループ活動の様子

複雑であることに最初は困惑する生徒が多く見られた。第3次では、第1次の学習で得た知識を活用し、イギリス本国側、植民地側と先住民の立場から考察した。この三つの立場で考察する以前は、イギリス本国側は植民地側を支配し、抑圧し、苦しめてきたという認識をもつ生徒が多かった。先住民については、教科書ではあまり触れられないことがないため、資料（チェロキー族の「涙の旅路」）を提示し読み取らせることで、生徒の多面的・多角的に考察する力が変容したと推測する。アメリカ独立宣言の英文の資料読み取りにおいて、あるグループは、all men の記述に着目した。「女性は含まれていたのか」「黒人や先住民は含まれているのか」「all people が正しい表し方では」などの考察（図9）が見られた。グループワークでの学びにより、自身の考えを深めるとともに、考えを広げることになり、アメリカ独立革命に対する認識が変わったという生徒の声を聞くこともできた。

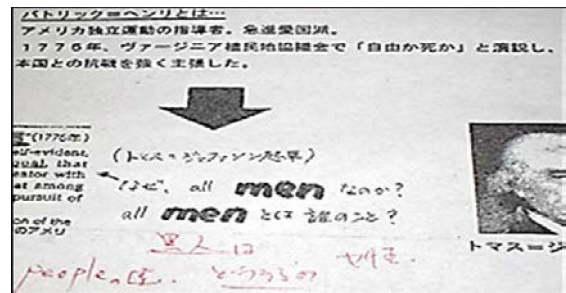


図9 資料の読み取りからの考察例

また、ワークシートの記述内容については、ルーブリック（表3）を用いて評価した。グループワークにおいては、活動や発表の様子を観察し、評価を行った。また学習計画表に設けた「単元の課題」の回答、各時間の「学習課題」の回答による振り返りの成果物（図10）においても、評価した。

表3 2学期に使用したルーブリック

アメリカ独立革命 単元のまとめ			
	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
思考・判断・表現	アメリカ独立革命の経緯や意義について理解し、関心を高め、多面的・多角的に考察している。現代のアメリカ合衆国の諸課題について、自分の言葉で表現し、追究している。	アメリカ独立革命の経緯や意義について理解し、多面的・多角的に考察し、現代のアメリカ合衆国の諸課題について、自分の言葉で表現している。	アメリカ独立革命の経緯や意義について理解し、多面的・多角的に考察している。

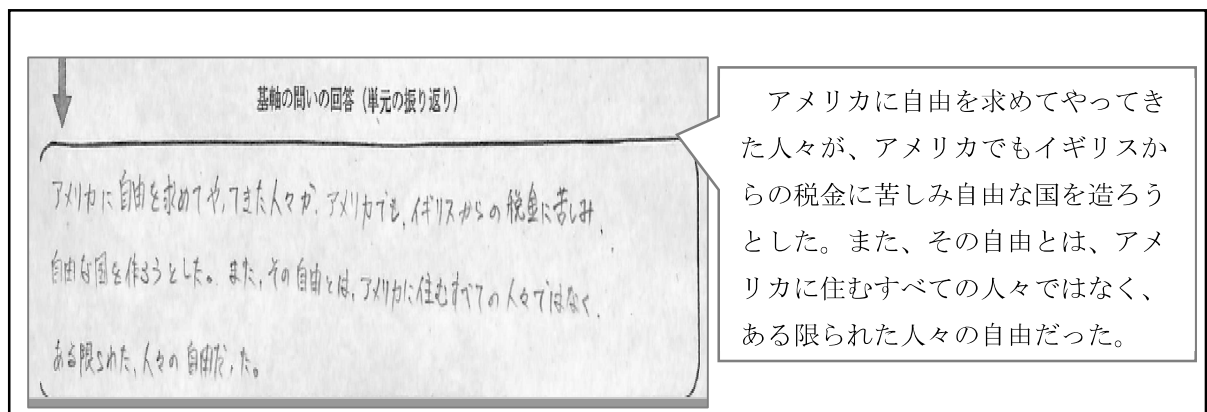


図10 単元の課題の記述例

5 成果と課題

(1) 質問紙調査の分析

生徒の意識の変容を見取るため、対象生徒に24項目による歴史の学習に関する質問紙調査を事前（5月）と事後（11月）に実施した。質問紙の内容は、歴史の学びに対する考えや意欲を問う項目は「算数・数学教育における問題解決学習の研究（6） 高校生の数学の学習に関する意識調査」重松敬一、嶋田恵司（通年9号）2000-03において開発された「数学の学習に関する調査」を参考に作成し、SPSS21を用いて分析した。実践の前後に実施した質問紙調査の平均値の差が有意かを測るために、t検定による分析を行ったところ、質問項目1、2、5、10、13、21において、 $p < 0.5$ で有意な差であると分析された（表4）。これら六つの回答の詳細を表したものが図11である。要因「意欲と好意度」では、項目1「今、歴史の授業が好きだ。」は平均値で0.28、人数では45人の数値が上がり、項目2「歴史の新しい知識を、自分から進んで身に付けたい。」においても平均値で0.25、人数では47人の数値が上がっており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになったと推測する。要因「歴史学習と思考」においては、項目5「集めた資料や情報を整理して、歴史的事象を推察することは重要である。」は、平均値で0.28、人数では50人の数値が上がっている。これは、生徒が、1学期授業実践におけるグループでの資料収集と整理、発表を行い、2学期授業実践では資料の読み取りを多面的・多角的に行い、歴史的事象をより深く考察したことが理由であると推測する。要因「歴史の達成感」においては、項目10「歴史の授業の内容はよく分かり、得意である。」の平均値が0.39、人数では44人の数値が上がっている。このことから、学習内容を理解し深めていきたいという意識が高まったと推測する。要因「地歴の有用性」においては、項目21「歴史の学習は、現在、未来の日常生活に役に立つ。」は、平均値で0.24、人数では52人の数値が上がっている。このことは、生徒が日常生活や未来の社会へのつながりを意識することで、現代の諸課題について追究したり解決したりする力が身に付いたと推測する。また、要因「指導の方法」では、項目13「歴史は、ペアやグループで勉強するのが好きだ。」は、平均値で0.28上がっている。これは、授業の導入の際にペアで発問や復習で前時の振り返りを行い、グループ学習での取組において学習成果を達成したことであると推測する。また、要因「指導の方法」の項目14「歴史の授業は、ICT機器を使って視覚的に学びたい。」の平均値の数値が下がっている。1学期の学習内容においてはICT機器の活用する場面が多かったが、2学期の学習内容においては活用する場面が少なくなり、活用時間も減少した。単元で付けたい力を意識したICT機器の活用法を検討したい。

表4 質問紙調査におけるt検定の結果（n=118）

要因	No.	質問項目	平均値		t値	有意確率
			5月	11月		
意欲と好意度	1	今、歴史の授業が好きだ。	2.63	2.91	-2.60	*
意欲と好意度	2	歴史の新しい知識を、自分から進んで身に付けたい。	2.44	2.69	-2.02	*
意欲と好意度	3	分からないことがあれば、自分から進んで資料や情報を収集している。	2.16	2.24	-0.75	
意欲と好意度	4	歴史の授業で、知らなかったことを知ったときはうれしい。	2.82	2.99	-1.56	
歴史学習と思考	5	集めた資料や情報を整理して、歴史的事象を推察することは重要である。	2.64	2.92	-2.94	**
歴史学習と思考	6	歴史上の人物の生き方について、自分と比較して考えることがある。	2.05	2.12	-0.57	
歴史学習と思考	7	歴史的事象の原因と結果について、順序立てて考えることは大切である。	2.95	3.11	-1.63	
歴史学習と思考	8	歴史の大きな流れや移り変わりを把握することは大切である。	3.13	3.31	-1.97	
歴史の達成感	9	歴史の授業では、他人に説明すると自分の理解が進む。	2.83	2.88	-0.45	
歴史の達成感	10	歴史の授業の内容はよく分かり、得意である。	2.27	2.66	-3.39	**

歴史の達成感	11	歴史のテストで、よい成績をとるとうれしい。	3.33	3.42	-0.89	
指導の方法	12	歴史は、一人で勉強するのが好きだ。	2.75	2.71	0.35	
指導の方法	13	歴史は、ペアやグループで勉強するのが好きだ。	2.42	2.69	-2.48	*
指導の方法	14	歴史の授業は、ICT機器を使って視覚的に学びたい。	2.88	2.86	0.25	
指導の方法	15	歴史の授業は、友達と対話しながら学びたい。	2.62	2.71	-0.84	
指導の方法	16	歴史の授業は、教室で一斉の講義形式で勉強するのが好きだ。	2.69	2.60	0.74	
地歴の有用性	17	歴史的事象は現在にも未来にもつながっている。	2.97	3.14	-1.85	
地歴の有用性	18	なぜその歴史的事象が起こったのか、原因を追究することに興味がある。	2.40	2.52	-1.06	
地歴の有用性	19	歴史は、科学・技術や経済・社会の発展に貢献している。	2.70	2.86	-1.59	
地歴の有用性	20	歴史上の人物がどのような生き方をしたのかは、現代人にも参考になる。	2.69	2.88	-1.70	
地歴の有用性	21	歴史の学習は、現在、未来の日常生活に役に立つ。	2.42	2.65	-2.21	*
地歴の効果	22	歴史的事象は地理的事象と深く結びついている。	2.77	2.93	-1.67	
地歴の効果	23	歴史の理解度が高まると地理の理解度も高まる。	2.52	2.61	-1.05	
地歴の効果	24	歴史のテストで、よい成績をとると、地理のテストもよい成績であった。	2.23	2.25	-0.31	

**p<0.1 *p<0.5

1 今、歴史の授業が好きだ。						2 歴史の新しい知識を、自分から進んで身に付けたい。					
11月 5月	4	3	2	1	5月計	11月 5月	4	3	2	1	5月計
4	7	7	5	0	19	4	2	3	8	1	14
3	6	28	13	2	49	3	5	17	20	1	43
2	9	17	10	1	37	2	7	16	17	2	42
1	3	8	2	0	13	1	4	13	2	0	19
11月計	25	60	30	3	118	11月計	18	49	47	4	118
UP45 DOWN28						UP47 DOWN35					
5 集めた資料や情報を整理して、歴史的事象を推察することは重要である。						10 歴史の授業の内容がよく分かり、得意である。					
11月 5月	4	3	2	1	5月計	11月 5月	4	3	2	1	5月計
4	0	9	5	0	14	4	6	16	6	3	31
3	14	30	11	0	55	3	13	22	9	2	46
2	5	23	12	1	41	2	6	15	8	2	31
1	3	4	1	0	8	1	1	6	3	0	10
11月計	22	66	29	1	118	11月計	26	59	26	7	118
UP50 DOWN25						UP44 DOWN38					
13 歴史は、ペアやグループで勉強するのが好きだ。						21 歴史の学習は、現在、未来の日常生活に役に立つ。					
11月 5月	4	3	2	1	5月計	11月 5月	4	3	2	1	5月計
4	2	8	7	0	17	4	2	6	2	1	11
3	9	16	5	5	35	3	7	17	22	2	48
2	10	21	10	5	46	2	3	22	10	3	38
1	2	6	7	5	20	1	2	11	7	1	21
11月計	23	51	29	15	118	11月計	14	56	41	7	118
UP55 DOWN30						UP52 DOWN37					

図 11 有意な差が見られた質問項目の回答別人数の詳細

(2) 考察

研究員は、ALプランニングノートを活用して「単元を見通すことで、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかという目標を明確にして、生徒観や生徒の変化を意識するようになった。」「授業を振り返ることで、自身の学びの振り返りもするようになり、授業改善につながった。」としている。

2学期の授業においては、研究校の地理歴史科を中心とした複数の教員に参観してもらい、生徒の変容を観察してもらった。事後の授業研究会では、「多くの生徒に自ら学ぶ姿が見られ、しっかりとした言葉で発表できるようになった。」「社会的事象について、見方・考え方の視点を変えるだけで様々なことが見え、その背景を踏まえたまとめをするようになった。」など、肯定的な意見があった。

単元の振り返りとまとめの記述の評価においては、ルーブリックを用いて、評価を行った。歴史の学習内容を振り返り、多面的・多角的に考察し、現代の諸課題について追究する表現がされていれば（A）と評価し、現代の諸課題について表現されていれば（B）と評価した。定期考査においても、単元のまとめの記述問題を出題し、学びの振り返りを行った。本研究では、研究開始前に生徒に付けたい力として現代につながる諸課題に対して追究したり、解決したりする生徒の変容が見られた。

また、生徒の変容として、地図を活用する力が付いてきたことである。これまで、世界地図を見ても、どこにどの国があるのか、日本との位置関係がどうであるのか、かつ地図に興味がないという生徒が多く見られた。国の位置を確認させたり、白地図に書き込ませたり、独自に重要な学習内容を書き込むことで、地図の活用が上達した。もう一つの生徒の変容として、「世界史の学習内容が分かると地理の学習内容の理解が深まった。」という生徒の感想より、多面的・多角的に考察する力が付いてきたことが見て取れた。歴史的な事象を地理的な見方・考え方でより考察することができれば、要因「地歴の効果」の項目の数値が上がると推察する。

(3) 今後の課題

質問項目3「分からないことがあれば、自分から進んで資料や情報を収集している。」の平均値が0.08の上昇であった。スマートフォンやインターネットも多く普及し、簡単に情報を得ることができる世の中であり、生徒の考える力、調べる力、まとめる力は向上したと推察するが、自ら実行する力は不足している。主体的に考え、調べ、まとめることができるように授業者から仕向けることが必要である。また、学習内容を理解することで、学習意欲が高まり、日常生活や未来の社会へのつながりを意識するだけでなく、世界の人々が協力し共存できる持続可能な社会の実現を見据える力を高めていかなければならない。そのためには、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業展開を継続的に実践していく必要がある。今回の研究においては生徒が「主体的・対話的で深い学びの実現」に至るには単元の見通しが重要であると確認できた。単元計画表に基づいて評価を行ったが、成果物の評価と定期考査が中心となり、評価方法の工夫改善が必要であると考え。学びの過程を重視し、生徒の資質・能力を更に育成できるように、アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりを継続して取り組んでいきたいと考える。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成21年）『高等学校学習指導要領』
- (2) 中央教育審議会（平成28年）「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377052_01.pdf
- (3) 中央教育審議会（平成28年）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380731_00.pdf
- (4) 大友秀明(2016)「社会的な事象の歴史的な見方・考え方」『社会科教育2016年9月号』明治図書 pp8-9
- (5) 重松敬一、嶋田恵司（2000）「算数・数学教育における問題解決学習の研究(6)高校生の数

学の学習に関する意識調査」『教育実践研究指導センター研究紀要(9)』奈良教育大学教育学部附属教育実践研究指導センター pp. 75-87